

大空に翔る

平成25年 3月発行
No.29

発行
公益財団法人 山形県体育協会
山形県スポーツ少年団
山形市松山 2-11-30
☎(023)625-5750
<http://www.yamagataken-taikyo.or.jp/>
印刷 (株)大風印刷

地区協議会だより



スポーツ少年団認定員養成講習会
兼スポーツリーダー養成講習会(村山地区協議会)



第48回山形県スポーツ少年大会
兼平成24年度ジュニア・リーダースクール(最上地区協議会)



置賜地区スポーツ少年団リーダー研修会(置賜地区協議会)



第39回日独スポーツ少年団同時交流受入事業(庄内地区協議会)

記念事業の財源については、上部組織である山形県体育協会からも、ご協力をいただくとともに、自分たちも参加意識を持ち、盛り上げていくように登録団員・指導者の皆さんに一人十円の協力をお願いすることにいたしました。登録時の納入となりますので、ご理解とご協力をよろしく願います。

終わりに、日頃の関係者各位のご指導ご協力に心から感謝を申し上げ、ごあいさついたします。

一年遅れて二十五年、山形県スポーツ少年団も設立五十周年を迎えます。三月八日の代議員会において、十一月十六日(土)の記念式典並びに記念講演、祝賀会や記念誌発刊などの記念事業を承認いただき、事業を推進するところです。詳細については二・三ページに掲載されておりますので、よろしくお願いたします。



ごあいさつ

山形県スポーツ少年団
本部長 村田 久忠

おめでとう

平成二十四年度 日本スポーツ少年団創設五十周年記念
 平成二十五年度 山形県スポーツ少年団設立五十周年記念



日本スポーツ少年団が創設され、ちょうど五十年目にあたる昨年六月二十三日、東京・品川プリンスホテルにおいて、秋篠宮同妃両殿下ご臨席のもと、日本スポーツ少年団創設五十周年記念式典が執り行われました。本県スポーツ少年団からは村田本部長と坂田、金、遠藤各副本部長の四名が出席しました。式典は坂本日本スポーツ少年団本部長が開式の辞をのべ、実行委員長長の張日本体育協会会長が式辞、そして、秋篠宮殿下がおことばを述べら

れ、来賓の祝辞のあと特別功労者の表彰、その後マーチングバンドスポーツ少年団のアトラクションがありました。

式典に先立ち、日本サッカー協会の上川徹氏の記念講演、そして、スポーツ少年団員によるオーリンピアンの萩原健司氏、小椋久美子氏へのインタビューが行われ、また、式典後のレセプションでは、ドイツから遠路ご出席いただいたドイツスポーツユース代表本部長のインゴ・ヴァイス氏の祝辞もあり、なごやかな歓談の場となり、十年の節目としての、新たな一歩を歩み始めました。

なお、詳しくは日本体育協会情報誌「スポーツジャパン」十一月・十二月特別号の十九ページから掲載されていますのでお読みください。

山形県スポーツ少年団 設立五十周年記念

本県スポーツ少年団も来年度が設立五十周年記念の節目の年にあたります。

子どもたちや地域社会のニーズに応え、地域に愛されるスポーツ少年団を目指

すため、「スポーツ少年団員の拡充・リーダーの養成」指導者確保と資質の向上」等の新たな目標を設定し、スポーツ少年団の更なる飛躍を期し、記念事業を開催することにしました。

記念事業の内容については、三月八日開催の代議員会において話し合われ以下の七事業に決定しました。①十一月十六日(土)に記念式典の開催。併せて②記念講演・記念パーティの実施。③五十周年記念誌の発刊。④昨年の日本スポーツ少年団創設五十周年事業でも実施された社会貢献事業―自らの活動地域の清掃・美化活動の実施。⑤五十周年を記念し、未来に向けた山形県スポーツ少年団のキャッチフレーズの募集。⑥ドイツへの指導者研修事業。⑦記念冠大会の実施です。一つ一つの事業内容については今後詰めていくこととなりますが、未来に向けて歩み始める第一歩として、皆で記念事業を作り上げていきましょう。

また、記念事業の財源確保として、二十五年度スポーツ少年団登録の団員・指導者の皆さんに一人十円の協力をお願いし、充当することになりましたので、ご協力をよろしくお願いいたします。

募集 みんなで作ろう 五十周年記念事業

【至急】 昭和三十七年～四十五年頃のスポーツ少年団活動写真をお持ちの方、記念誌への提供をお願いします。(P3問合せまでご連絡ください。)

【募集】 山形県スポーツ少年団「未来に向けて、更に発展していくためのキャッチフレーズ」を募集します。

募集期間は、四月一日～六月二十日。

応募方法は、はがき、FAX、メールで。作品の簡単な説明と、住所、氏名、年齢、職業（在学者は学校名、学年）、電話番号を明記。未発表のもの。
 表彰は最優秀賞一点、優秀賞二点に記念品を。

■キャッチフレーズ例

秋田県

「はばだけ！」

未来のアスリート」

埼玉県

「スポーツともだち仲間たち

～みんなで歩んだ五十年

そして未来へ」

【募集】指導者の皆さんドイツに

視察研修に行きましよう

(期 間)

平成二十六年五月中旬十日間

(参加費用) 約三十万円

(募集人員) 一〇名

(募集締切)

平成二十五年十月末

○お問合せは、

公益財団法人山形県体育協会
山形県スポーツ少年団

担当：長濱・岸

TEL：023-625-5750

FAX：023-625-5741

E-mail：

yamagataken@japan-sports.or.jp

まで

平成二十四年度山形県スポーツ少年団

指導者・育成母集団研修会

最上地区スポーツ少年団指導者協議会 会長 五十嵐 忠一

十一月十七日(土)、ニューグランドホテル(新庄市)において、県内各地より一三三名の参加を得て、研修会が開催されました。

研修会に先立ち、日本スポーツ少年団顕彰伝達式が行われ、一団団・四個人が、村田県本部長より表彰を受け、三川町スポーツ少年団本部長の三浦正明氏が謝辞を述べました。

研修会開会行事において、高野博最上教育事務所長より日頃のスポーツ指導を通して子どもたちの健全育成への御礼とスポーツ少年団へ期待すること等のあいさつをいただきました。

研修会は、公益財団法人日本サッカー協会トップフェリーインストラクター上川徹氏を講師に迎え、「指導者に期待すること―子どもたちに考えさせる―」の演題で講演をいただきました。上川氏は、子どもたちの考えを引き出し、違う考えが出てきてもそれを認め、一人ひとりを尊重することがスポー



ッを通しての判断力の育成や子どもたちの将来につながることを力説されました。また、主審として国際試合に臨むときに心がけていることや、試合中の審判心理などについても語られました。講演を通して、スポーツ少年団活動のあり方、子どもたちの健全な成長について考える良い機会となりました。



講演に引き続き、朝日サッカースポーツ少年団(鶴岡市) 上野薫氏より「少子化における団の運営について(魅力ある団活動をめざして)」と題して、ブルーインパルスサッカースポーツ少年団(最上町) 佐藤俊夫氏からは、「ボールと友だちになろう」と題して、実践事例の発表をいただきました。上野氏は、朝日サッカースポーツ少年団の歩みや現状、活動の方針と今年度の活動状況を発表されました。定期練習だけでなく、東京都墨田区サッカー協会少年部との隔年での相互交流や、親子サッカーやクリスマス会、新中学一年生を励ます会などのレク事業等は、今後の団活動の参考になるものと考えます。

また、佐藤氏は、ブルーインパルスサッカースポーツ少年団の歩みや基本方針、活動内容を発表されました。基礎基本を大切にしたい指導を行い、日頃の練習の成果を確認するために各種大会に積極的に参加し、子どもたちの技能の上達を認めている、との活動の紹介がありました。特に平成十三年から続いているサンパウロFCとの選手交流は、技術習得だけでなく、サッカー本来の魅力に触れる良い機会となつているとのことでした。トップチームとの交流についてお聞きできたことは、今後の指導方法の参考になったと考えます。さらに地域事業にも積極的に参加し、地域に根づいたスポーツ少年団を目指しているとのことでした。

参加された方々からは、「指導者として大事にしなければならぬことが再確認できました。」「他の団の発表を聞き、自分の所属する団を振り返る良い機会となりました。」「他団の発表を聞いた。などの感想が多く寄せられ、短い時間ではありましたが、有意義な研修会となりました。」



本県出場選手より団員へメッセージ

2012 ロンドンパラリンピック

みなさん、こんにちは。ロンドンパラリンピック、アーチェリー競技日本代表の斎藤紳一です。

私は二十年ほど前に車を運転中トラックに追突され、首の脊椎を損傷しました。腕の一部の機能と左手の指が少し動く以外、首より下が麻痺しています。

二〇〇〇年のシドニーオリンピック、パラリンピックを見ていて『あのメダルが欲しいな』と思いました。

その後たまたまアーチェリーのジャパンパラリンピックを見る機会がありました。一対一の勝ち抜き戦の緊張感がとても伝わってきて『これだ』と思いました。

最初はとても苦労しました。右の指はまったく動きませんからつかむことも引くことも放すこともできません。腕にも麻痺があるので強い弓を引くこともできませんでした。

しかし、あきらめずに一つ一つクリアしていきました。リリーサーというものを使い、押し付ければ弦をつかみ、回転させれば弦を離すように改造しました。その後もいろいろな種類のリリーサーを作りました。一日置き筋トレとプロテインで、弓を引く強さも最初の二倍以上になりました。

また、首から下が麻痺しているのので弓を持ち上げるとバランスを崩し、前に倒れてしまいます。そこで肩ベルトで身体を固定しました。そのほか弓置きを作ったり、スコープを可動式にしたり、よくまあ自分でもいろいろやっただもんだと思います。

あれから十数年、今回三度目の挑戦

アーチェリー

斎藤 紳一 (鶴岡市出身)



『生涯青春』です。

私もロンドンで負けた次の日から自分の目標であるパラリンピックのメダルをめざし取り組みを始めています。

『志を高く』と『できない理由は人達のように感じます。』

『できない理由はいらないの』

『何をどうすればいいのか、それだけ』

『どうすれば勝てるのか、それだけ』

『人をいけません。どうやったら勝てるかしか考えていないように思います。できない理由はいらないの』

『何をどうすればいいのか、それだけ』

『どうすれば勝てるのか、それだけ』

『人をいけません。どうやったら勝てるかしか考えていないように思います。できない理由はいらないの』



私が車椅子バスケットボールを始めたきっかけは、平成四年に開催された山形県にばな国体を観戦に行き、初めて目にした車イスバスケットボールのスピード感や車椅子がぶつかり合う激しさに目を奪われたことがきっかけでした。

最初に所属したチームは仕事の都合もあり、仙台を拠点に活動している宮城MAXというチームでした。当時の宮城MAXは全国大会に出ることもできないチームで、最初はこのチームで良かったのかと不安になる部分もありました。しかしながら選手・スタッフの志は非常に高く、当時は無謀にも「全国制覇」を目標に掲げて日々練習に取り組み、今では日本選手権四連覇を達成するチームにまで成長することが出来ました。

車椅子バスケットボール

東海林和幸 (山形市出身)

今回のパラリンピックへの挑戦も最初は全く考えてなかったことではありましたが、日々練習している中で、「いつかは日の丸を背負って戦いたい」と思う気持ちが芽生え、何度も選考会に参加しましたが、何度も選考落ちを経験し、ようやく手にした世界への切



符でした。日の丸を背負って戦う世界の舞台は、今までに感じたことのないプレッシャーではありましたが、純粹に今まで車椅子バスケットボールを続けてきて良かったと思える最高の場所でした。最初はほんの小さなきっかけではありましたが、どれだけ困難な目標であろうとも願えば叶うと私は信じています。皆さんも無謀かもしれない大きな目標だとしても、願えば叶うと信じて努力してもらいたいと思います。

山形県 青少年スポーツリーダー会紹介



スポーツ少年団はスポーツだけでなく交流活動にも力を入れており、スポーツ少年団の大会には競技をしない大会があります。仲間と協力することや後輩の面倒を見るよ

スポーツ少年団はスポーツだけでなく交流活動にも力を入れており、スポーツ少年団の大会には競技をしない大会があります。仲間と協力することや後輩の面倒を見るよ

スポーツ少年団の「リーダー」とはなんだろうと不思議に思う人がいると思います。リーダーは指導者とは違います。団員であり、小学生の団員のお兄さん、お姉さんといった感じで、スポーツ少年団の活動が楽しくなるよう、指導者と団員とのパイプ役や、先輩という立場で小学生の団員と一緒に一つの目標に向かっていけるよう、団をまとめ

スポーツ少年団の「リーダー」とはなんだろうと不思議に思う人がいると思います。リーダーは指導者とは違います。団員であり、小学生の団員のお兄さん、お姉さんといった感じで、スポーツ少年団の活動が楽しくなるよう、指導者と団員とのパイプ役や、先輩という立場で小学生の団員と一緒に一つの目標に向かっていけるよう、団をまとめ

スポーツ少年団は団員のほとんどが小学生だと思いますが、中学生以上も団員として活動できるスポーツクラブです。スポーツ少年団では、中学生以上の団員を「リーダー」と呼んでいます。そして山形県スポーツ少年団リーダー会とは団員登録をしている県内の高校生から二十一歳までを対象としたスポーツ少年団活動を楽しみたい、スポーツが大好きで将来スポーツ指導者を目指している、また、自分の長所を伸ばしたいなど、様々な思いを持って人たちが集まった会です。



リーダー活動には指導者になるためのプログラムも準備されています。毎年夏に中学生を対象に開催されるジュニア・リーダースクールに参加すると

ジュニア・リーダーに認定されま

ジュニア・リーダーに認定されま

ジュニア・リーダーに認定されま

ジュニア・リーダーに認定されま



ジュニア・リーダーに認定されま

ジュニア・リーダーに認定されま

ジュニア・リーダーに認定されま

ジュニア・リーダーに認定されま

ジュニア・リーダーに認定されま



ジュニア・リーダーに認定されま

ジュニア・リーダーに認定されま

ジュニア・リーダーに認定されま

ジュニア・リーダーに認定されま

ジュニア・リーダーに認定されま



市町村の動き

鶴岡市スポーツ少年団本部事務局

単位団紹介

中山ソフトテニススポーツ少年団(中山町)

代表指導者 佐藤 俊晴

三十年前から、中学校の中体連大会に向けての技術指導をしていました。

町のテニス協会の仲間です。スポーツ少年団として立上げたのが十一年前です。

結成当初から、運営・会計は事務局(指導者)が行なっており、母集団の方々には、用具(ボール)代以外は無理をかけないという方針で、現在も練習場の手配も事務局で行ない、「親も子ども達と一緒にテニスを楽しもう」を目指しています。



現在の団員は、小学生二十二名、中学生三十四名、高校生二名、合計五十八名の構成です。小・中学生別々に週二回の定期練習を行ない、各大会へ臨んでいます。高校生は中学生の技術指導を含めメンタルサポートとしても大きな役割を担い、昨年は日独交流にも参加させて頂き大きな体験をすることができました。

小学生から成人までが集い、子ども育成の場として、縦の繋がりを重視した活動をこれからも続けていきます。リーダー研修等への積極参加を呼びかけ、団員全員が「スポーツを通して感動を得られる少年団」を目指していきます。

日新レッドスターズスポーツ少年団(新居市)

代表指導者 星川 英彦

日新レッドスターズ(野球)スポーツ少年団は、現在二年生三名、三年生五名、四年生十名、五年生七名、計二十五名で日々練習に励んでいます。日新レッドスターズのチーム方針、「急がず・休まず・一步一步」何のスポーツでも言えることですが、日々の努力、日々の練習が実を結びます。私達指導者も、焦らず子ども達の能力に合わせて練習メニューを考えているところです。年間のイベントとして、春、グラウンド開きと共に行う学校、グラウンド周りの清掃活動、夏休みに行う座禅会、日新レッドスターズ主催の交流大会、福島県勿来野球教室、宮城県榴野球クラブへの遠征、親子行事等実施しています。特に、勿来野球教室への遠征は、二月下旬、雪深い新庄を離れて、福島県いわき市勿来町までグラウンドの土を求めて行く、チームとして大切な遠征の一つとなっております。



最後になりましたが、今回、添付いたしました写真、去年八月、埼玉県所沢市にあり、まず西部ドームで行われた、第十五回「全国小学生(三・四年生)ティーパーティ選手権大会」の写真です。この大会では、ベスト8まで勝ち進むことができました。

飯豊柔道スポーツ少年団(飯豊町)

代表指導者 伊藤 和範



飯豊柔道スポーツ少年団は昭和五十六年に町柔道会が柔道の振興と、子ども達の健全育成を目的に設立されました。現在は町民スポーツセンター柔道場で活動をしていきますが、設立当時は中学校寄宿舎の空き部屋や地区公民館を活動場所とし、活動場所の確保に苦労したことを思い出します。

団員は小学生七名と、中学生三名の十名と少数ではありますが、お互い励まし合いながら週二回の練習と大会に参加しています。また、母集団が中心となつて芋煮会や鏡開き、スキーやボウリング等のレクリエーション活動を企画、実施しています。

近年、団体戦のメンバーは組める状態は保っておりますが、少子化の影響もあり団員の減少は否めません。その為、他スポーツ少年団と合同練習会を行いながらレベルアップに努めております。

指導は、スポ少のOBが中心となり自身が経験したことを先輩に伝えるなど、良い流れが出来てきました。また、子ども達と組み合わせがらの指導となりますので、成長が直に感じられ、子ども達が強くなつていくことを喜びや励みとしています。

団員たちには礼儀を重んじることは勿論のこと、仲間や家族に感謝をする心の大切さを教えていきながら、今後とも元氣いっぱい頑張っていきたいと思います。

陽光サッカースポーツ少年団(鶴岡市)

代表指導者 大澤 繁雄

陽光サッカースポーツ少年団は平成九年に鶴岡市立朝陽第四小学校区のサッカー好きの子ども達で結成し単位団登録。翌年、日本サッカー協会へチーム登録し、初めての公式大会でサッカーの面白さを実感しました。

平成十二年度に代表指導者の交代がありました。平成二十四年度(第十六期)は一年生から六年生までの小学生団員三十九名(女子五名)と中学生団員二十三名と十七名の指導者(女性二名)が在籍し、少年サッカー大会への参加や地域伝統行事への参加のほか、家族と一緒にスポーツを楽しむことを活動方針としています。

朝陽第四小学校は二年後に、隣接する小学校と統合し新設移転をすることから、統合後はスポーツ少年団も新しい仲間を迎えて活動することになります。進級する鶴岡第四中学校では一緒に部活動することになるため、サッカースポーツ少年団では先駆けて少年団登録し、一緒に活動していきます。

日々の活動で競技力向上を目指しながら、団員一人一人の生きる力を育み、四中学区総合型地域スポーツクラブ「やまがクラブ」と連携し、地域とともに青少年社会教育団体として子ども達の健全育成に取り組みたいと思います。



団員の夢

「夢に向かってあきらめない」



MIRACLE
ANGELS JVC
スポーツ少年団(天童市)
安孫子 京佳

私がバレーボールを始めたきっかけは、友達にさそわれ、体験をしに行くと「楽しい」と思ったからです。

小学五年生の始めたばかりのころは、ボールをちがう所にやったり、ボールから目をはなしてしまったり上手くなげないことのくり返しでした。

かんとく、コーチの方々、先輩方が実際にやってみせて、アドバイスなどをいただきました。私は、絶対あきらめないで努力しようと思いました。その技術ができるようになると、とても嬉しくなってバレーボールがもっと楽しくなりました。そして、もっと細かい技術を身につけようと思いました。

今年、V・プレミアリーグを見に行きました。選手一人一人がボールに向かって足を止めないで、すばやくボールを生けん命つないでいました。私はその時、思わず「すごい」と言ってしまいました。

私はまだまだですが、中学校でもバレーボールをやりたいです。体力をつけて技術の練習もがんばり、夢に向かってあきらめない気持ちを持って、全力でバレーボールをやっていきたいと思っています。

私の夢



鮭川 Jrバレー
スポーツ少年団
高橋 柚

私は小学校二年生からバレーボールを始めました。きっかけは姉がバレーボールをしていて、自分も「姉のようになりたい!」というあこがれを持つたからです。

二年生からしても試合に出られるようになったのは四年生の頃からです。それまでがんばって試合に出られるように努力しました。

そして、四年経ち、今年六年生になりました。キャプテンになってみんなをまとめる立場になり、いろいろな事を学びました。強くなるためにはもちろん、技術面もそうですが気持ちの面もすごく大切だと思います。いくらバレーボールが上手でも気持ちが弱ければ負けてしまいます。私は失敗してもプラス思考でプレーをしています。

バレーボールの楽しい所は、六人で協力してできる事です。バレーボールは個人競技ではないので、誰か一人でも欠けると出来ない競技だと私は思います。六人でボールをつないで喜んで、悲しんだりできる、このような協力性を持った人しか「バレーボール」という競技は絶対にできません。

将来は、全日本の迫田さおりさんのような選手になりたいです。そのために、これからも努力を惜しまず、バレーボールをがんばっていききたいです。

「立派な選手になりたい」



高島わかさ
スポーツ少年団
鈴木 慶哉

ぼくは、二年生からバスケットボールを始めました。ぼくのおじいちゃんがコーチをしているので、小さいころから試合を見に行っていました。全国大会や東北大会に出場した先輩たちを見ていて、ぼくも上手になりたいと思つたことが、始めたきっかけになりました。

バスケットボールをして一番大切に思うことは、チームワークです。チームワークを良くするためには、仲間を大切に、楽しく練習することが一番だと思います。新チームがスタートした今、キャプテンとして、がんばることはたくさんあります。声掛けをすること、コーチから教わったことを一つ一ついねいにシュートを打つこと、ドリブルはしっかりと、パスミスはしないなどです。二月に始まる新人戦に向けて、毎日努力をし、目標をしっかりと持つて、今年も県大会に行けるようがんばりたいです。

ぼくの将来の夢は、プロの選手になること、そして、わかさのコーチになってバスケットを教えることです。そのためには、体育館に書いてある「強い選手である前に立派な選手であれ」を目標にしてがんばりたいです。

「ぼくの今年の夢」



余目卓球
スポーツ少年団(庄内町)
長谷部 至人

今年のぼくの夢は、個人戦と団体戦の両方の試合で全国大会に出場することです。

ぼくは、一年生の春に余目卓球スポーツ少年団に入団しました。でも、まだ一度も全国大会に出場したことがありません。個人戦では、いつも県大会で負けてしまいます。今年は六年生になり、スポ少での試合は最後です。今年こそ全国大会に出場したいです。

団体戦では、一昨年、ぼくは初めてメンバーに選ばれました。県大会で四位になり、北日本ブロック大会に出場することができましたが、予選で負けてしまい、とてもくやしかったです。

去年は、一昨年より勝ちたいと思いい、メンバー全員で気持ちをひとつにして練習をしました。でも、結果は一昨年と同じ、北日本ブロック大会予選敗退でした。

今年こそ、北日本ブロック大会より上の全国大会に出場したいです。そのために、毎日の練習を大切にして、コーチの方だけではなく、親にも感謝し、ありがたうという気持ちをもってやりたいです。

その気持ちがみんなに伝わるように、ときばきと行動をして、練習をがんばり試合で勝ちたいです。

県の動き

表彰

○日本スポーツ少年団顕彰
 (市区町村表彰) 三川町スポーツ少年団
 (表彰指導者) 須貝憲明(山形市)、奥山敏夫(河北町)、島貫潤一郎(飯豊町)、佐藤義彰(鶴岡市)

○山形県スポーツ少年団表彰受賞者
 (優良団) 中山ソフトテニススポーツ少年団(中山町)、白岩スポーツ少年団(寒河江市)、大久保野球スポーツ少年団(村山市)、東根G.I.T.T.S.スポーツ少年団(東根市)、日新レッドスターズスポーツ少年団(新庄市)、宮内柔道スポーツ少年団(南陽市)、飯豊柔道スポーツ少年団(飯豊町)、湯殿山スポーツ少年団(鶴岡市)、余目一小三銃道場スポーツ少年団(庄内町)、南平田秋真館スポーツ少年団(酒田市)

(功労者) 折笠満(中山町)、早川勤也(寒河江市)、阿部哲(朝日町)、石塚清尾(花沢市)、佐藤繁(戸沢村)、高野祐次(南陽市)、岡田明(白鷹町)、村田茂(鶴岡市)、横山修(庄内町)、佐藤俊次(酒田市)

○認定スポーツ少年団資格取得者
 ○認定育成員 横山卓司(寒河江市)
 ○認定員養成講習会兼スポーツリーダー養成講習会 七コーズ開催
 (参加者) 五七六名(内二九七名認定)
 ○認定員(スポーツリーダー資格保有者) 八名認定

○県スポーツ少年大会兼ジュニア・リーダースクール
 七月二十八〜三十日 山形県神室少年自然
 (参加者) 少年大会六十八名、ジュニア・リーダースクール三十七名(内三十一名認定)、指導者四十七名、リーダー六名
 ○県指導者・育成母集団研修会
 十一月十七日 新庄市(参加者) 一三三名
 ○日独同時交流受入
 八月四〜八日 鶴岡市
 (ドイツ団) 指導者一名、団員七名
 (ホストファミリー) 渡辺実夢、伊藤紀、佐々木望、佐藤優、本間歩、山本航、伊木和津佳、村田久忠(鶴岡市)
 ○日独同時交流派遣
 八月一〜十八日 十八日間
 (指導者) 遠藤薫、(団員) 渡辺満里奈(寒河江市)
 ○シニア・リーダースクール
 八月十〜十四日 静岡県
 (団員) 松田真優(寒河江市)、斎藤拓未、伊藤雄平、佐藤悠乃、齋藤遥(鶴岡市)
 ○全国リーダー連絡会
 九月二十九〜三十日 東京都
 (指導者) 上野和義(鶴岡市)、(リーダー) 鈴木桃佳(鶴岡市)、佐竹恵(中山町)
 ○北海道・東北ブロックリーダー研究大会
 十月六〜八日 福島県
 (指導者) 上野和義(鶴岡市)、(リーダー) 山本航、鈴木桃佳、難波杏、井上鞠加(鶴岡市)
 ○全国スポーツ少年大会
 八月四〜七日 千葉県
 (指導者) 高砂晃(寒河江市)、(団員) 飛塚凌、峯田準也、高砂文音、宮本桃花、飛塚凜、古城明日香、松田尚大、鈴木庸市(寒河江市)、野口大輔(鶴岡市)
 ○東北ブロックスポーツ少年大会
 八月二〜五日 青森県
 (指導者) 清野美智夫(鶴岡市)、(団員) 佐藤順樹、佐藤快、今井達夢、斎藤直希、伊藤晃任、五十嵐紀緒、阿部咲輝(鶴岡市)
 ○全国スポーツ少年団競技別交流大会
 【サッカー】(第三十六回)七月三十日〜八月四日 静岡県 F・Cやまほし(寒河江市)【ホッケー】(第三十四回)七月二十七〜三十日 新潟県 小松ホッケー(川西町)、【剣道】(第三十五回)三月二十五〜二十七日 佐賀県 大泉

剣道(鶴岡市)【バレーボール】(第十四回)三月二十三〜二十六日 高知県 不参加
 ○東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会
 【軟式野球】七月七日 福島県 大郷ベールスポーツクラブ(山形市)、【サッカー】七月二十八〜三十日 天童市 興城小サッカー(米沢市)、OSAフオルトナ山形フットボールクラブ(山形市)、鶴岡城北サッカー(鶴岡市)、山形FCジュニア、うめばちサッカー(山形市)【柔道】十一月二十四〜二十五日 宮城県 大道館(山形市)、三川柔道(三川町)、南沼原柔道(山形市)、戸沢道場柔友会(戸沢村)【ミニバスケットボール】三月九〜十日 青森県 うめばちミニバスケットボール、わかたけミニバスケットボール(山形市)、日新ミニバスケットボール(新庄市)、城北ミニバスケットボール(鶴岡市)、新堀ミニバスケットボール(酒田市)

○全国の特集記事の一つは、昨年八月ロンドンで開催されたパラリンピック大会に、山形県から出場された三人の中から二人の選手に寄稿して頂きました。幾多の困難を克服して日々厳しいトレーニングを積み重ね、晴れの国際舞台で活躍する生き様は、多くの人々に感動や夢・希望の光を灯してくれるものと思います。
 二つ目は、昭和三十八年四月に山形県スポーツ少年団が設立され、本年度五十周年の節目を迎えます。スポーツ活動を通じた青少年の健全育成を目的に五十年間活動してきた歴史の重みを、団員・保護者・指導者の一人ひとりが胸に刻んで新たな一歩を踏み出す時です。徒らに、勝利至上主義にのみ傾注することなく、スポーツ少年団の三つの理念を念頭に、「スポーツを通じた人づくり」に邁進することを期待いたします。このことが、団員・保護者一人ひとりのニーズに応えると共に、地域社会に貢献できるものと確信いたします。

編集後記

編集委員
 委員長 志村 忠夫
 副委員長 寒河江寿樹
 委員 安野 重幸、高橋 達之、三上 重幸
 瀧澤 孝次、佐藤 利浩、佐藤 俊次
 廣川 由香、沼尻 貴行、小松 智弥



みんなの笑顔で
 ガッチリ
安心!

傷害保険 賠償責任保険 突然死葬祭費用保険

スポーツ安全保険

インターネットからの加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

士 財団法人 スポーツ安全協会 山形県支部
 (山形県体育協会内)

〒990-2412 山形市松山2丁目11番30号 TEL 023-642-8321 電話受付時間(平日)午前9時〜午後5時(土・日・祝日を除く)

保険の詳細内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

http://www.sportsanzen.org
 ●資料請求は、インターネットより受付しております。

(引当金庫) 東洋海上自動車火災保険株式会社 (担当課) 公務第2部公務第1課
 TEL 03-3515-4133 (平日9:00~17:00)
 (共同引当金庫) 東洋海上自動車火災保険株式会社 (担当課) 公務第2部公務第1課
 TEL 03-3515-4133 (平日9:00~17:00)
 ※予金(保険となる場合があります)
 東洋海上自動車火災保険株式会社 東京海上日動
 日新火災 日本興業 損害 火災 三井住友海上
 平成23年1月作成 10-T-08374